

平成25年度 次世代育成支援事業報告書

高梁市老人クラブ連合会 成羽老人クラブ

<p>① 地域 の 概 況</p>	<p>高梁市成羽町は、岡山県中西部に位置する吉備高原の西北端にあり、林野が74%を占め、耕地はわずか8.2%にすぎないが、山崎豊治が陣屋町としての町づくりを行い今日の市街地の基礎となっている。人口は4,816人、高齢化率39.12%と少子高齢、過疎化が進んでいる。</p> <p>本町は、地質学的にみても特異な存在としてチャートや石灰岩などがあり、学界の注目を集めている地でもある。観光では、吹屋ふるさと村、広兼邸、笹畝坑道、ベンガラ館、成羽美術館などがあり年々観光客が増加している。また文化財として備中神楽発祥の地でもあり、国の無形文化財として現在に至っている。</p> <p>そのような地域環境の中で、成羽地域老人クラブは17単位クラブからなり、1,058人の会員で結成されている。各単位クラブでもさまざまな活動をしているが、17の単位クラブと連携を取りながら地域クラブの活動を充実させている。</p>
<p>② 活 動 状 況</p>	<p>○子どもの見守り活動</p> <p>《成美長寿クラブ連合》 日時：平成25年1月9日 15:00～15:30 場所：成美コミュニティー 成美長寿クラブ連合子ども見守り隊を結成、出発式を行った。</p> <p>《成羽地域老人クラブ》 日時：平成25年7月3日 15:00～15:30 成羽地域老人クラブ子ども見守り隊を結成、出発式を行った。 場所：成羽小学校</p> <p>出席者：高梁警察署関係者 3名 成羽小学校校長 1名 成羽地域老人クラブ 20名</p> <p>低学年児童94名と対面、紹介 式終了後、関係者24名と小学校の先生方とで、低学年児童が陸橋や横断歩道を渡るのに安全に注意させながら下校状況を見守った。 実施場所は、総門橋北詰め、コミュニティー横、八幡様前、小平園下、中渡り石田邸下、穴井出橋西詰めを中心に他10地点のポイント（うちバス通学の地区は各地区の停留所）に立って見守った。 見守り活動参加者は、ベスト・タスキに帽子を着用、各17単位老人クラブ会長</p>

及び役員 20 人と、成美長寿クラブ連合会員 26 人で、月 1 回「毎月第 3 週の金曜日」（休日の場合はその前日）午後 3 時 30 分頃行った。

※交通量の多い通学路もあれば、たった一人だけの通学路もあります。下校の安全を見守るだけでなく、「おかえり、気を付けてね!」「さようなら」などの声掛けを行っている場面は、子どもたちが大勢の地域の方に見守られていることを実感する瞬間でもある。

○保育園児との餅つき交流

1.日時：平成 26 年 1 月 17 日（金）9：00～11：00

場所：成美保育園ホールと庭園

②
活
動
状
況

参加者：成美連合長寿クラブ会員 8 人、園児 18 人、保護者 10 人、つくしの会会員親子 20 人、保育士 7 人

2.日時：平成 26 年 1 月 21 日（火）9：30～11：30

場所：鶴鳴保育園ホールと庭園

参加者：鶴鳴連合長寿クラブ会員 14 人、園児 85 人、保護者 8 人、保育士 17 人
《餅つき実演、指導》

成美連合長寿クラブ（成美西、成美北部、成美東南部長寿クラブ）、鶴鳴連合長寿クラブ（鶴鳴西、鶴鳴中、鶴鳴東長寿クラブ）の代表 22 人に、それぞれの保育園で実演、指導をしてもらった。

（園児の活動）

- ・かまどの様子を見る。（全員）
- ・お餅つきの様子を見る。（全員）
- ・実際に杵を持ち手を添えてもらい（長寿クラブ会員、保護者）お餅つきの経験をする。（4、5 歳）
- ・もち米からお餅に変わる様子を経験する。（全員）
- ・手に餅とり粉をつけ自分でお餅をまるめる。（2～5 歳）

（長寿クラブの活動）

- ・餅つき実演・指導をする。
 - ・お餅を切り園児に渡し、丸め方などを教える。
- （保護者・保育士の援助）
- ・かまどに火を起こし、もち米を蒸す。
 - ・保護者・保育士が手を添え、園児に杵の重さやお餅つきの様子を経験させながら、お餅つきの準備やつきあがる過程を知らせる。
 - ・園児と一緒にお餅をまるめ、丸め方を丁寧に知らせ、餅の感触を肌で感じ、一人ひとりが楽しんで参加できるようにする。余りをまるめる。
 - ・丸められたら、よく噛んで食べるよう伝え、のどに詰まらせないよう十分に注意しておく。

※三世代が楽しく交流し、餅をつく、餅を切る、餅を丸めるなど、園児に昔ながらの餅つきの様子を見せ、つきたてのお餅のおいしさを味わうことができた。

<p>③</p> <p>活動の効果</p>	<p>○子どもの見守り活動では、今回初めてということでタスキとベストの数が少なかったために、各単位クラブの会長だけの活動となったが、地域の方々との声掛け、車のドライバーとのコミュニケーションができ大変良かった。幼い頃からの安全への橋渡しは、間違いなく子どもたちの心に届いていると思います。子どもたちに声をかけ合うことで地域の連帯感も生まれ、地域のみなさんが安全に対する関心を深めることができた。</p> <p>○保育園児との餅つき交流では、核家族が増えているなか、お爺ちゃん、お婆ちゃんの温かみを感じながらたくさん笑顔が見られた。三世代交流をすることで、教え伝えていく学び合いが、園児たちにも高齢者にも貴重であり、人のために役立つ喜びやボランティア精神の原点を楽しく学ぶことができた。毎年行事のように行っているので、園児との交流は高齢者にとっての楽しみや喜びの一つになっている。</p>
<p>④</p> <p>課題・問題点</p>	<p>今回はタスキとベストが単位の会長と役員 20 人分だけだったので、成羽地域老人クラブの見守り活動は単位老人クラブの代表者だけの活動となったが、今後も継続していく活動として、タスキとベストの数、見守る実施場所も増やしていきたい。老人クラブ会員の協力を得ながら、月一回を週一回にし登下校を見守りたい。</p> <p>成羽町は高齢者率が 39.12%で、山間部では特に一人暮らしの高齢者が増えています。今後は子どもの見守りと同時に、一人暮らしの高齢者宅にも目を向け、定期的な安否確認や声掛けをしていきたい。</p> <p>少子高齢化が進むなか、小学生がいない地域が増えているので、単位クラブごとの三世代交流が難しくなっている。</p>
<p>⑤</p> <p>今後の進め方</p>	<p>次年度も子ども見守り隊を継続して毎月の恒例行事とし、交通安全意識向上と共に子どものいない地域での見守りは、行政とも協力しながら、特に一人暮らしの高齢者世帯に対し、定期的に訪問するなど、安否確認等の見守りを計画している。</p> <p>小学校の新学期には、老人クラブ見守隊の面々と対面式を行い、防犯意識を育む。</p>